仙台銀行ホール イズミティ21コンサートシリーズ

イズミノオト 第5回 スメタナ・ドヴォルザーク・ヤナーチェク

故郷ノ回顧録（メモワール）

2021 7／3（土）

［開　演］午後3時（開場 午後2時30分）

［会　場］仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

イズミノオト

Bedřich Smetana
Antonín Dvořák
Leoš Janáček

【主催】公益財団法人仙台市市民文化事業団、KHB東日本放送
【企画制作】仙台銀行ホール イズミティ21、HAL PLANNING
【協力】日本音楽財団（日本財団助成事業）【協賛】仙台銀行

Program

Antonín Dvořák
アントニーン・ドヴォルザーク

弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調 作品96, B.179「アメリカ」*1
String Quartet No.12 in F Major, Op.96, “American”

Ⅰ.Allegro ma non troppo
Ⅱ.Lento
Ⅲ.Molto vivace
Ⅳ.Vivace ma non troppo

Leoš Janáček
レオシュ・ヤナーチェク

弦楽四重奏曲 第2番「内緒の手紙」*2
String Quartet No.2, JW Ⅶ/13, “Listy duverne”

Ⅰ.Andante……
Ⅱ.Adagio……
Ⅲ.Moderato……
Ⅳ.Allegro……

休憩

Bedřich Smetana
ベドジフ・スメタナ

弦楽四重奏曲 第1番 ホ短調「わが生涯より」*3
String Quartet No.1 in E Minor, “From my life”

Ⅰ.Allegro vivo appassionato
Ⅱ.Allegro moderato a la Polka
Ⅲ.Largo sostenuto
Ⅳ.Vivace

ヴァイオリン　会田 莉凡（*1第2,*2*3第1）/ 大江 馨（*1第1,*2*3第2）
ヴィオラ　安達 真理 / チェロ　吉岡 知広

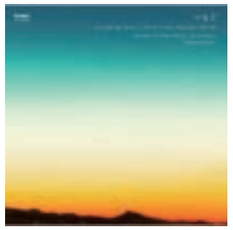
※終演後、出演者によるアフタートークを予定しています。

山野楽器仙台店のオススメ

スメタナ・ドヴォルザーク・ヤナーチェクCD/書籍情報

［CDタイトル］
ドヴォルザーク：ヴァイオリン協奏曲
［収録曲目］
① ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.53 B.96
② ヴァイオリン・ソナチネ ト長調 op.100 B.183
③ 母の教え給いし歌（クライスラー編）
④ ユモレスク（クライスラー編）
［演奏者名］大江馨（Vn）、②～④山中惇史（P）
［管弦楽団名］①上岡敏之指揮
新日本フィルハーモニー交響楽団
［規格品番］OVCL-718
［　定　価　］税込3,300円　［レーベル］エクストン

美しい第2楽章をはじめ魅力的な旋律が詰まったヴァイオリン協奏曲と、ドヴォルザークが残したヴァイオリンの名曲たち。本日出演する大江馨さんが素敵な演奏を聴かせています♪



［CDタイトル］
つなぐ-ドヴォルザーク：「新世界より」
［収録曲目］
① 交響曲第9番 ホ短調 op.95「新世界より」
［管弦楽団名］飯守泰次郎指揮
仙台フィルハーモニー管弦楽団
［規格品番］FOCD-9807
［　定　価　］税込2,750円
［レーベル］フォンテック

ドヴォルザークの自筆譜を使用したこだわりの「新世界より」！アメリカで遠い祖国ボヘミアを想い作られた名作を、仙台フィル渾身の演奏でお楽しみください。

［CDタイトル］
ヤナーチェク：シンフォニエッタ/タラス・ブーリバ
［収録曲目］
① シンフォニエッタ　② タラス・ブーリバ
［管弦楽団名］ヴァーツラフ・ノイマン指揮
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
［規格品番］COCQ-85399
［　定　価　］税込1,650円
［レーベル］スプラフォン

村上春樹「IQ84」で取り上げられた晩年の傑作「シンフォニエッタ」と、ゴーゴリの小説を下敷きにした「タラス・ブーリバ」を、チェコを代表する指揮者、オーケストラで。

［CDタイトル］
スメタナ：連作交響詩「わが祖国」
［収録曲目］
① 連作交響詩「わが祖国」
［管弦楽団名］ラファエル・クーベリック指揮
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
［規格品番］COCQ-85311
［　定　価　］税込1,650円
［レーベル］スプラフォン

有名な第2曲「モルダウ」をはじめチェコの風景や伝説を描いた代表作。チェコ民主化後初の「プラハの春音楽祭」での、42年ぶりに祖国に戻ったクーベリックの感動の名演です。

［書籍タイトル］**歴代作曲家ギャラ比べ**
［著者］山根悟郎　［ISBN］9784058012369　［定価］税込1,760円
［出版社］学研プラス

クラシック音楽史に名を残す作曲家のお財布事情を、対照的な二人を比較する形で解説しています。祖国の発展に尽力したスメタナ×国際的名声を獲得したドヴォルザークの比較も面白いです♫

イズミノオトは、事前に配布している告知チラシにも
解説を掲載しています。併せてご覧ください。

ベドジフ・スメタナ
Bedřich Smetana
1824年3月2日−1884年5月12日

アントニーン・ドヴォルザーク
Antonín Dvořák
1841年9月8日−1904年5月1日

レオシュ・ヤナーチェク
Leoš Janáček
1854年7月3日−1928年8月12日

ベドジフ・スメタナ

アントニーン・ドヴォルザーク

レオシュ・ヤナーチェク

〈イズミノオトハジメ〉

19世紀チェコ、その西側ボヘミアと東側モラヴィアで生まれた3人の作曲家は、「自分の寄って立つところ」を強く意識せざるを得ない社会に生きました。4人の弦楽器奏者それぞれが奏でる1本の旋律線が、もつれあいながら高まっていく弦楽四重奏の持つ親密性は、民族のアイデンティティと、そこに生きる「自分」を表現するのに最適な編成だったでしょう。ヨーロッパ文化の周縁に生まれた傑作は、全世界に普遍的な財産となりました。

アントニーン・ドヴォルザーク

弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調 作品96, B.179「アメリカ」

1892年9月、ドヴォルザークはナショナル音楽院院長就任のオファーに応えるため、ニューヨークに赴きました。翌年6月5日には、チェコ人の入植地であるアイオワ州スピルヴィルを訪ねます。交響曲「新世界から」を脱稿してから約2週間、この作品は6月8日に着手され、6月23日には完全なスコアを書きあげたと言われています。ニューヨークと違い、静けさに包まれ、同国人のことばが聞こえる環境が、作曲の筆を滑らかにさせたのでしょう。ドヴォルザークは、黒人の民謡や原住民の音楽に関心を寄せましたが、アメリカ的な旋律が引用されているという具体的な指摘はありません。異郷に在ることを意識しながら、故郷を想う郷愁が焼きつけられた作品です。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロッポ ヘ長調 4分の4拍子

ヘ長調の和音を背景に、ヴィオラが奏する素朴で快活な主要主題と、ヴァイオリンに現れる穏やかな副主題で構成されるソナタ形式。

第2楽章 レント ニ短調 8分の6拍子

波打つような音型が続く上に、歌い継がれていく哀愁を帯びた旋律。

第3楽章 モルト・ヴィヴァーチェ ヘ長調 4分の3拍子

スケルツォ。ひとつの主題が、ふたつの姿で交互に現れる。はじめはヘ長調で活発に、続いてヘ短調で形を変えて。

第4楽章 ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロッポ ヘ長調 4分の2拍子

主要主題を予告する序奏の後、元気な主要主題、その後変イ長調に転じ、落ち着いた副主題が現れます。ソナタ形式またはロンド・ソナタ形式と解釈できます。

レオシュ・ヤナーチェク

弦楽四重奏曲 第2番「内緒の手紙」

ヤナーチェクが生まれ育ったモラヴィア地方は、スメタナやドヴォルザークの故郷ボヘミアとは文化的に大きな違いがあります。ドイツに接するボヘミアの民俗音楽は、西側ヨーロッパの影響が大きいためか、シンプルな和音や規則的な拍子で構成され、器楽的性格が強く開放的です。対するモラヴィアでは、拍子に必ずしも規則性がなく、旋律の動きも流動的。声楽的なタイプが多く瞑想的です。ヤナーチェクの音楽に見られる不規則的なリズム、揺れ動くテンポは、モラヴィアの音楽の特徴に由来すると考えられます。和音の移り変わりによる繊細な色彩の変化も魅力です。38歳年下の女性カミラ・シュテスロヴァーとの出会いは、晩年のヤナーチェクに大きな霊感を与え、歌曲集「消えた男の日記」や数々のオペラ作品に実を結びますが、最もストレートな心情を芸術作品として昇華させたのが、1928年に作曲されたこの弦楽四重奏曲です。以下に各楽章のテンポ表示を示しますが、これらはあくまでも目安で、実際にはどの楽章もテンポが細かく変化し楽想も揺れ動きます。併せて作曲者による各楽章の解題を記します。

第1楽章 アンダンテ, コン・モート, アレグロ, アダージョ, アレグロ

「最初の出会い」

第2楽章 アダージョ, ヴィヴァーチェ, アダージョ

「ある夏の日、モラヴィアで二人がともにした幸福」

第3楽章 モデラート, アレグロ, アダージョ

「愛するカミラの肖像」

第4楽章 アレグロ, アンダンテ, コン・モート, アレグロ

「カミラによって引き起こされる不安と願望、願望の充足」

ベドジフ・スメタナ

弦楽四重奏曲 第1番 ホ短調「わが生涯より」

1876年に作曲されたスメタナ自身の音楽的自叙伝。ダイナミックで緊密な楽器の書法、無駄のない構成は、19世紀後半の弦楽四重奏曲を代表する作品です。

第1楽章 アレグロ・ヴィーヴォ・アパッショナート ホ短調 4分の4拍子

「あこがれ、芸術に身を捧げ、言い表せないものを表現することを望んだ熱気に満ちた若き日。同時に将来の悲劇をも予感させる。」変形されたソナタ形式。ホ短調の和音が揺れる中に、ヴィオラに引き締まった主要主題が現れ、3連符の動機も加わって緊張感が高まります。曲想は次第にほぐれてト長調に転じ、ヴァイオリンが流麗な副主題を奏します。転調を重ねながら小終結部へと進み、展開部では主要主題が3連符動機とともに扱われ、緊迫した場面を経て、副主題がホ長調で回帰します。主要主題は再現部では現れずに終結部で姿を見せ、副主題と重なって静かに楽章を閉じます。

第2楽章 アレグロ・モデラート・アッラ・ポルカ ヘ長調 4分の2拍子

「ポルカを作曲していた若い頃の楽しい日々。中間部では、貴族階級の思い出を描こうとした。」近景(A)と遠景(B)が交互に現れる、次のような構成です。A1(下行音型に導かれて乱れ舞うポルカのリズム)−A2(勢いの良い楽しいポルカ)−B(変ニ長調、遠景。幻想的にスローモーションで回顧されるリズム)−A1(近景。リズムの饗宴)−A2(ポルカ)−B(短縮され後半は近景に)−短い終結部。

第3楽章 ラルゴ・ソステヌート 変イ長調 8分の6拍子

「後に妻となった少女カテルジナへの初恋の幸福を思い出させる。」三部形式。チェロの独白の後、主部ではヴァイオリンが抒情的な旋律を歌い、甘い切なさに満たされます。中間部は短調となり、主部の旋律のリズムを縮小して作られた動機による切迫した楽想。その後主部が回帰しますが、旋律を支える背景は複雑に変奏され、ロマンス的な性格を強調します。

第4楽章 ヴィヴァーチェ ホ長調→ホ短調 4分の2拍子

「チェコ国民音楽の発展のために身を捧げようとした決心と、その成功によって得られた喜び。だが、病が到来し、悲劇が喜びを打ち砕く。傷つけられた過去の思い出、運命に対する諦め。」勢いの良い3連符の動機、16分音符の喜ばしいリズム、開放的な民俗舞曲、これらが代わる代わる現れます。それぞれの楽器から紡ぎだされる響きは大変精緻で、民俗音楽的な楽想を見事に芸術表現に昇華しています。しかし221小節目から、不吉な和音とともに耳鳴りを象徴する鋭い高音が鳴り響き、第1楽章などで聴こえた旋律がまぼろしのように現れては消え、音楽は勢いを取り戻すことなく静かに終結を迎えます。ピッツィカートで奏される最後の和音が、ホ音上の長三和音であることが、かすかな救いでしょうか。

解説:吉川 和夫(作曲家、聖和学園短期大学学長)

仙台銀行ホール イズミティ21コンサートシリーズ

イズミノオト 第6回 チャイコフスキー 偉大な芸術家ノ思い出に

2021 11/28(日)

［開　演］午後3時（開場 午後2時30分）

［会　場］仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

イズミノオト

Pyotr Il'yich Tchaikovsky

［主催］公益財団法人仙台市市民文化事業団、khb東日本放送

［企画制作］仙台銀行ホール イズミティ21、HAL PLANNING

［協力］日本音楽財団（日本財団助成事業）　［協賛］仙台銀行

Program

Pyotr Il'yich Tchaikovsky

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

アンダンテ・カンタービレ（チェロとピアノ版）

Andante cantabile

チェロ：吉岡知広　ピアノ：浜野与志男

四季 作品37b より

The Seasons (Les Saisons), Op. 37b

4月「松雪草」

April: Snowdrop

5月「白夜」

May: May Nights

11月「トロイカ」

November: Troika

ピアノ：浜野与志男

懐かしい土地の思い出 作品42 第3曲「メロディ」

Souvenir d'un lieu cher, Op. 42: No. 3. Melodie

ワルツ・スケルツォ 作品34

Valse-scherzo, Op. 34

ヴァイオリン：植村太郎　ピアノ：浜野与志男

休憩

ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50「偉大な芸術家の思い出に」

Piano Trio in A Minor, Op. 50

ピアノ：浜野与志男　ヴァイオリン：植村太郎　チェロ：吉岡知広

※終演後、出演者によるアフタートークを予定しています。

山野楽器仙台店のオススメ

チャイコフスキー CD/書籍情報

チャイコフスキー：《四季》他

チャイコフスキー：
① 18の小品op.72 ～第5曲 瞑想曲
② 6つの小品op.51 ～第2曲 少し踊るようなポルカ
③ 熱い告白 ④ 18の小品op.72 ～第3曲 やさしい非難
⑤ 18の小品op.72 ～第2曲 子守歌 ⑥「四季」op.37b
ヴラディーミル・アシュケナージ（Pf）
［規格品番］UCCD-52060 ［定 価］税込1,870円
［レーベル］デッカ

チャイコフスキーらしいメロディと哀愁が感じられる『四季』。ロシアの名手アシュケナージの演奏で「舟歌」、「トロイカ」をはじめロシアの情景を想像してお楽しみください。

チャイコフスキー：ピアノ三重奏曲「ある偉大な芸術家の想い出のために」

① ピアノ三重奏曲第2番ホ短調op.67（ショスタコーヴィチ）
② ピアノ三重奏曲イ短調op.50
「ある偉大な芸術家の想い出のために」（チャイコフスキー）
③ タンゴ・パセティック（キーゼヴェッター）
マルタ・アルゲリッチ（Pf）ギドン・クレーメル（Vn）
ミッシャ・マイスキー（Vc）
［規格品番］UCCG-6138 ［定 価］税込1,760円 ［レーベル］ドイツ・グラモフォン

師に捧げたチャイコフスキー唯一のピアノ・トリオ。アルゲリッチ/クレーメル/マイスキーの豪華な組み合わせでの来日公演を収録した人気の一枚です！

チャイコフスキー：交響曲第4・5・6番「悲愴」

チャイコフスキー：
① 交響曲第4番ヘ短調op.36
② 交響曲第5番ホ短調op.64
③ 交響曲第6番ロ短調op.74「悲愴」（CD2枚組）
エフゲニ・ムラヴィンスキー指揮
レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団
［規格品番］UCCG-4643 ［定 価］税込2,723円
［レーベル］ドイツ・グラモフォン

交響曲の中でも特に人気の高いチャイコフスキーの後期交響曲。数多い録音の中でも長らく名盤として名高いムラヴィンスキーのオススメ名演3つをカップリング！

チャイコフスキー：三大バレエ組曲

チャイコフスキー：
① バレエ組曲「白鳥の湖」op.20
② バレエ組曲「くるみ割り人形」op.71a
③ バレエ組曲「眠りの森の美女」op.66
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
［規格品番］UCCD-4401 ［定 価］税込1,676円
［レーベル］デッカ

CMなどでも人気の冬の定番「くるみ割り人形」をはじめとした「白鳥の湖」、「眠れる森の美女」の三大バレエ組曲を収録！優雅で重厚なカラヤンの演奏で。

音楽家の伝記 **はじめに読む1冊 チャイコフスキー**

［著者］ひのまどか
［ISBN］9784636972924
［定価］税込1,760円
［出版社］ヤマハミュージックメディア

物語のように書かれているので、子どもから大人まで読みやすいチャイコフスキーの伝記。音楽が視聴できるQRコードが付いており、登場した曲をその場ですぐに聴くことができます。

イズミノオトは、事前に配布している告知チラシにも
解説を掲載しています。併せてご覧ください。

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

Pyotr Il'yich Tchaikovsky

1840年4月25日−1893年10月25日

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

〈イズミノオトハジメ〉

ロシアの作曲家ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840〜1893）の作品は、世界的に見ても大変人気があります。しかし、人気が集まるのは主に交響曲や管弦楽曲、協奏曲などで、室内楽曲やピアノ曲を生演奏で聴くことのできる機会は決して多くはありません。実際、管弦楽等に比べて、チャイコフスキーが作曲した室内楽曲やピアノ曲の作品数は少ないのですが、いずれも不朽の輝きを放つ名品です。どうぞじっくりお聴きください。

○ アンダンテ・カンタービレ（チェロとピアノ版）

1871年に作曲された弦楽四重奏曲第1番　ニ長調　作品11の第2楽章が、このアンダンテ・カンタービレ。アンダンテ（歩くような速さで）、カンタービレ（歌うように）という音楽標語がそのまま固有の曲名のようになりました。文豪トルストイが涙を流して聴きいったというエピソードも知られています。原曲は変ロ長調ですが、チェロとピアノのための編曲は半音高いロ長調です。編曲者はヴィルヘルム・フィッツェンハーゲン（1848〜1890）。フィッツェンハーゲンは、弦楽四重奏曲第1番の初演に参加し、「ロココの主題による変奏曲」を献呈されたドイツ人のチェリストです。調が半音上がったことで、凜とした冷たい空気が暖炉端の温もりに変わったような変化があるかも知れません。

○ 四季 作品37b より
4月「松雪草」、5月「白夜」、11月「トロイカ」

1875年の11月、チャイコフスキーはペテルブルクの出版社から、月刊雑誌「ヌヴェリスト（短編小説家）」に掲載するために、毎月1曲ピアノ小品を書いてほしいという依頼を受けました。四季折々の風物を描いた12の小品は、翌年1月から連載開始され、後にピアノ曲集「四季」となりました。
各曲には、様々な詩人による詩が添えられています。

4月「松雪草」

長い冬を経て、春の到来を告げる可憐な松雪草に寄せて描く「かつての悲しみとこれから訪れる幸せ」への思い。変ロ長調、8分の6拍子。

5月「白夜」

夜の時間が短くなる白夜。一年で最も恵まれ、美しい自然を存分に享受できる幸福なひととき。ト長調、8分の9拍子。

11月「トロイカ」

ネクラーソフの詩では、3頭立ての馬そりで去る人への悲しみが描かれますが、悲痛な曲想ではなく、冬を迎える寂しさがほのかに漂う風情です。ホ長調、4分の4拍子。

○ 懐かしい土地の思い出 作品42 第3曲「メロディ」

作品42は「瞑想曲」「スケルツォ」と「メロディ」の3曲からなり、1878年3月から5月にかけて、ヴァイオリン協奏曲とほぼ並行してまとめられました。「メロディ」はモデラート・コン・モート、変ホ長調、4分の3拍子。三部形式で、主部ではピアノの陰影に富んだ和音を背景にヴァイオリンが優しい旋律を奏で、軽快で優美な中間部を経て、主部が戻ってきます。

○ ワルツ・スケルツォ 作品34

1877年の作品。優雅な旋律、次々と変化する和音の色彩や転調など、チャイコフスキー作品の特徴が色濃く表れています。三部形式で、主部はハ長調、中間部は変イ長調とヘ短調が軸となり、技巧的なカデンツァをはさんで、再現部では主部の主題を華やかに変奏します。元はヴァイオリン独奏と管弦楽のために書かれました。
この作品は、友人であるヨシフ・コーテクに献呈されました。ヴァイオリニストであるコーテクは、ヴァイオリン協奏曲の演奏技巧について、作曲者に多くの助言をしました。作曲者の死後、ロシアのヴァイオリニスト、ワシリー・ベゼキルスキー編による版が出版されましたが、ベゼキルスキーはヴァイオリンの技巧を強調したのみならず、全体の3分の1ほどの部分をカットしました。作曲者の意に添うことだったかどうかわかりませんが、現在ではコンパクトなベゼキルスキー版やベゼキルスキー版に基づいたジョーゼフ・ギンゴールド編の楽譜によって演奏されることが多いようです。

○ ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50
「偉大な芸術家の思い出に」

「偉大な芸術家」は、ピアニスト、指揮者、教育家であったニコライ・ルビンシテイン（1835〜1881）を指します。チャイコフスキーは、モスクワ音楽院の教師として、約12年間音楽院の同僚として過ごしましたが、それ以上に、ニコライは生涯チャイコフスキー作品の良き理解者、協力者でした。追悼の想いを込めたこの作品は1882年に完成しました。曲は、2つの楽章からなります。

第1楽章 大規模なソナタ形式

ピアノによるイ短調の分散和音を背景に、チェロが哀切な感情に満ちた主要主題を歌います。副主題はホ長調。「憧れと希求」の輝かしさが感じられます。

第2楽章「主題と変奏」「変奏の終曲とコーダ」

ピアノ独奏によって提示されるホ長調、民謡風の主題はニコライに関係があり、続く11の変奏と終曲はその生涯の出来事の反映であると言われていますが、具体的には明らかではありません。

第1変奏 ホ長調　ヴァイオリンが爽やかに主題を奏する。

第2変奏 ホ長調　3拍子に転じ、主題はチェロに移る。

第3変奏 ホ長調　ピアノを中心とするスケルツォ風。

第4変奏 嬰ハ短調　チェロとヴァイオリンが歌いあげる民謡風な変奏。

第5変奏 嬰ハ長調　弦楽器の持続音を背景に、ピアノが高音域を軽やかに跳ねる。

第6変奏 イ長調「ワルツのテンポで」。バレエ音楽を思い起こさせるワルツ。

第7変奏 ホ長調　鐘が鳴り響くように堂々と奏される主題。

第8変奏 ホ長調のフーガ。

第9変奏 嬰ハ短調　一転してピアノのアルペジオに導かれる悲歌。

第10変奏 変イ長調「マズルカのテンポで」。

第11変奏 ホ長調　和音の刻みに乗って、ヴァイオリンが幅広く明るく歌う。

変奏の終曲とコーダ　ホ長調

変奏の終曲はソナタ形式。「決然と、火のように」と記され、英雄的な威厳が感じられますが、やがて曲想は翳りを見せ、コーダでは哀切な第1楽章主要主題が戻ってきます。終結部には「悲しみに満ちて」と記され、葬列を送るごとき厳粛さのうちに曲を閉じます。

解説：吉川 和夫（作曲家、聖和学園短期大学学長）

仙台銀行ホール イズミティ21コンサートシリーズ
イズミノオト 第7回 ドビュッシー 月ノ光

2022 2／27（日）

［開　演］午後3時（開場 午後2時30分）
［会　場］仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

イズミノオト

Claude Achille Debussy

［主催］公益財団法人仙台市市民文化事業団、khb東日本放送
［企画制作］仙台銀行ホール イズミティ21、HAL PLANNING
［協力］日本音楽財団（日本財団助成事業）　［協賛］仙台銀行

Program

Claude Achille Debussy
クロード・アシル・ドビュッシー

月の光（ハープ独奏）
Clair de lune（le solo de harpe）
ハープ：清水 梨紗

子供の領分
Children's Corner
第1曲　グラドゥス・アド・パルナッスム博士
No.1 Doctor Gradus ad Parnassum
第2曲　象の子守歌
No.2 Jimbo's Lullaby
第3曲　人形のセレナード
No.3 Serenade for the Doll
第4曲　雪は踊っている
No.4 The snow is dancing
第5曲　小さな羊飼い
No.5 The little Shepherd
第6曲　ゴリウォーグのケークウォーク
No.6 Golliwog's Cake Walk
ピアノ：野平 一郎

2つのアラベスク
2Arabesques
ピアノ：野平 一郎

シランクス
Syrinx
フルート：戸田 敦

休憩

チェロ・ソナタ ニ短調
Sonate pour violoncelle et piano Ré mineur
チェロ：吉岡 知広　ピアノ：野平 一郎

フルート、ヴィオラとハープのためのソナタ
Sonate pour flûte, alto et harpe
フルート：戸田 敦　ヴィオラ：井野邉 大輔　ハープ：清水 梨紗

ヴァイオリン・ソナタ ト短調
Sonate pour violon et piano Sol mineur
ヴァイオリン：神谷 未穂　ピアノ：野平 一郎

※終演後、出演者によるアフタートークを予定しています。

山野楽器仙台店のオススメ
ドビュッシー CD/書籍情報

ドビュッシー：作品集Vol.1
① 2つのアラベスク
② 前奏曲集第1集
③ ベルガマスク組曲
［演 奏 者］野平一郎（P）
［規格品番］WWCC-7741
［定　　価］税込3,080円
［レーベル］ライヴノーツ
野平一郎さんが2012年に録音したドビュッシー作品集。研究、分析しつくされた繊細で美しいドビュッシー像をお楽しみください！

ドビュッシー：3つのソナタ/神聖な舞曲と世俗的な舞曲
① 神聖な舞曲と世俗的な舞曲
② フルート,ヴィオラ,ハープのためのソナタ
③ チェロ・ソナタ　④ ヴァイオリン・ソナタ
①ジャン＝ピエール・ランパル指揮/パイヤール室内管弦楽団
①② リリー・ラスキーヌ（HP）
② ジャン＝ピエール・ランパル（FL）ピエール・パスキエ（VA）
③ ポール・トルトゥリエ（VC）
③④ ジャン・ユボー（P）④ シャルル・シルルニク（VN）
［規格品番］WPCS-21066［定 価］税込1,100円
［レーベル］エラート
最晩年の傑作のソナタを3曲すべて収録！ラスキーヌ、ランパル、トルトゥリエら演奏陣も盤石の名盤です。

ドビュッシー：管弦楽曲集
① 交響詩「海」
② 牧神の午後への前奏曲
③ 夜想曲
④ 遊戯
［演 奏 者］ピエール・ブーレーズ指揮
ニュー・フィルハーモニア管弦楽団
③ ジョン・オールディス合唱団
［規格品番］SICC-40039［定 価］税込1,760円
［レーベル］ソニー・クラシカル
「牧神」「海」などドビュッシーの人気オーケストラ曲が揃った人気盤。葛飾北斎を引用したジャケットも素敵です。

ドビュッシー：
海 / 前奏曲集第1巻 / シランクス 他
［CD1］① 牧神の午後への前奏曲
② 弦楽四重奏曲ト短調
③ シランクス（フルート・ソロのための）
④ 版画　⑤ 交響詩「海」
［CD2］① 前奏曲集第1巻
② チェロ・ソナタ ニ短調　③ 夜想曲
［演 奏 者］カラヤン、ミケランジェリ、他
［規格品番］UCCG-3805［定 価］税込1,571円
［レーベル］ドイツ・グラモフォン
ドビュッシーの人気曲をCD2枚にまとめて収録。オーケストラもピアノも器楽曲もこれ一枚で楽しめます。

クラシック作曲家列伝
［ 著 者 ］絵・文/やまみちゆか　監修/飯尾洋一
［ 定 価 ］税込1,870円
［出版社］マール社
［ ISBN ］9784837306849
かわいいイラストと明快な説明で作曲家たちの素顔が分かる！子どもから大人まで楽しめる1冊。「倫理観も音楽の規則も完全無視」?!なドビュッシーについてのエピソードもとても面白いです。

イズミノオトは、事前に配布している告知チラシにも
解説を掲載しています。併せてご覧ください。

クロード・アシル・ドビュッシー

Claude Achille Debussy

1862年8月22日－1918年3月25日

〈イズミノオトハジメ〉
クロード・アシル・ドビュッシー（1862～1918）は、印象主義の作曲家とされています。絵画や文学をこよなく愛したことでも知られる彼は、一方では古典的な均整美を尊重しつつ、自由で繊細な感性を通して、それまで創作で扱われることの少なかった大気や水、運動なども音楽で表現しています。今日は、ドビュッシーの初期のピアノ曲から晩年の室内楽曲までのさまざまな音楽をお楽しみください。

クロード・アシル・ドビュッシー

○ 月の光（ハープ独奏）

ドビュッシーは、バロック時代の音楽に深い関心を持ち、それは《ベルガマスク組曲》に反映されています。このタイトルは、ヴェルレーヌの詩の言葉に由来しています。作品は1890年に書き上げられますが、1905年に改訂されました。4曲からなるこの組曲は、印象主義の第一歩を示す創作です。そのなかの第3曲「月の光」は、ヴェルレーヌの同名の詩が作曲のきっかけとなったと言われています。繊細なハーモニーの色合いとその心地よい混濁は、淡く透き通るような雰囲気を醸し出します。

○ 子供の領分

1908年に完成された《子供の領分》は、6曲からなる組曲のようなスタイルの曲集で、娘のシュシュことクロード＝エンマに捧げられました。本来の英語のタイトルは「Children's Corner」、まさしく「子どもたちの部屋」です。

第1曲「グラドゥス・アド・パルナッスム博士」

クレメンティが作曲した練習曲集「グラドゥス・アド・パルナッスム」を弾く子どもが描かれています。

第2曲「象の子守歌」

象の人形を抱く子どもは、まどろみの世界へと入っていきます。低音部のメロディには、五音音階が用いられています。

第3曲「人形のセレナード」

右手が奏でる五度の音程の軽やかなリズムは、この曲のリズムを形作っています。

第4曲「雪が降っている」

同じモティーフがさまざまに形を変え、舞い降りる雪の運動を表わしています。

第5曲「小さな羊飼い」

シュシュは羊飼いの人形を大切にしていて、キャベツちゃんと名づけられていました。この曲は、羊飼いの青年の笛が奏でる音で始まります。

第6曲「ゴリウォーグのケークウォーク」

ゴリウォーグは、童話に登場するキャラクター。曲中には、シンコペーションやユニークなアクセント、ジャズのようなメロディが散りばめられています。

○ 2つのアラベスク

1888年に作曲された《2つのアラベスク》は、ドビュッシーの初期のピアノ作品です。アラベスクは、アラビア風の紋様を意味します。

第1番

ホ長調。流れるような分散和音に乗って、メロディは透き通るような優美な紋様を描いていきます。

第2番

ト長調。第1番とは対照的に、躍動的で回転するようなモティーフに彩られています。

○ シランクス

《シランクス》は、無伴奏のフルート作品。ドビュッシーは劇音楽の創作を依頼され、1913年にこの曲を書き上げます。神話を題材とした劇は完成されず、この曲もドビュッシーの死後に出版されました。シランクスは、神話に出てくる精霊で、牧神のパンにつきまとわれます。川辺に追い詰められた彼女は、葦に姿を変えました。その葦を折って、パンは笛を作ったと言われており、この曲は「パンの笛」と呼ばれることもあります。
最初の2小節がこの曲の主題といえましょう。半音と全音とが織り合わさったそのモティーフは、緩やかに下行していきます。神秘的な響きに満ちた音楽で、終盤には下行する全音音階がはっきりと示されています。

○ チェロ・ソナタ ニ短調

晩年を迎えたドビュッシーには、さまざまな楽器のための6つのソナタを作曲する構想がありました。しかし、完成したのは3曲のみで、彼は1918年にこの世を去ってしまいます。ドビュッシーは、《チェロ・ソナタ》を1915年に完成させました。古典的なソナタ形式を用いずに、フランス・バロックを範に楽曲を構成しています。

第1楽章「プロローグ」

1つめの主題は、冒頭のピアノの内声部に織り込まれています。その後、チェロがモノローグを語るような主題を表わします。

第2楽章「セレナード」

セレナードは本来、夕暮れ時の窓辺でギターによって奏でられる音楽でした。チェロのピツィカートで弦を弾く表現は、あたかもギターを模しているかのようです。

第3楽章「終曲」

緊張感みなぎるフィナーレ。チェロの奏でるレチタティーヴォのようなフレーズは、ドビュッシー特有の表現です。

○ フルート、ヴィオラとハープのためのソナタ

《フルート、ヴィオラとハープのためのソナタ》も、1915年に作曲されました。1904年には、半音階を簡単に演奏できるように開発されたハープのために《神聖な舞曲と世俗的な舞曲》を作曲するなど、ドビュッシーはハープに関心を寄せていました。第1楽章にはソナタ形式ではなく、「牧歌（パストラル）」を置くなど、バロック時代の組曲の理想がこの曲に反映していると見ることもできます。

第1楽章「牧歌」

パストラルの伝統にのっとり、音楽は8分の9拍子で始まります。フルートの調べは、《牧神の午後への前奏曲》を思い起こさせます。

第2楽章「間奏曲」

冒頭に「メヌエットのテンポで」と記されています。付点のリズムを含む柔和な主題を、フルートが歌い上げます。

第3楽章「終曲」

生き生きとしたフィナーレで、最後に第1楽章の主題が現われます。

○ ヴァイオリン・ソナタ ト短調

病が進行するなかで、ドビュッシーは1917年に《ヴァイオリン・ソナタ》を書き上げ、ヴァイオリニストのガストン・プーレとともに自らピアノを弾いて初演を果たしました。ガストン・プーレは、仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門で審査員を務めたジェラール・プーレさんのお父様です。このソナタも、古典派の作曲家のソナタのような、厳密なソナタ形式は用いられていません。3楽章構成で、主題やモティーフは、それぞれの楽章と密接に結びついています。

第1楽章

ピアノの和音が響くなかで、ヴァイオリンの奏でる下行する分散和音が主要主題となります。複調も用いられており、これもドビュッシー特有の表現です。

第2楽章「間奏曲」

曲の冒頭には「幻想的かつ軽快に」と記されています。ヴィオラによるピツィカートの表現は、《チェロ・ソナタ》の第2楽章を連想させます。

第3楽章「終曲」

序奏の冒頭で、第1楽章の主題をヴァイオリンが表わします。続く急速な部分では、ヴァイオリンによるエキゾチックな主題が印象的です。

解説：道下 京子（音楽評論家）